



「片目で見え方チェック」のおすすめ！

ちば
地場 達也（眼科部長）

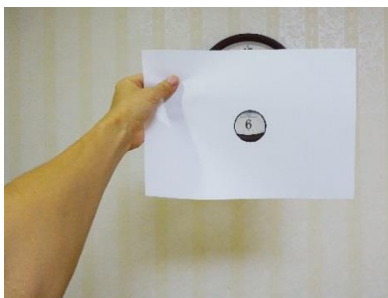


2015年8月より眼科に着任しました地場達也と申します。現在眼科では常勤医師1名と非常勤医師3名、視能訓練士2名、看護師1名、受付スタッフ3名の計10名で眼科診療、検査、処置、予約等を行っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、今回は日本眼科医会でも推奨している「片目で見え方チェック」の重要性について紹介させていただきます。

年齢を重ねるごとに増えてしまう目の病気ですが、早期発見が鍵である事は確かです。片目だけに見え方の異常がある場合、意外と気が付かずに放置してしまう事も多く、「片目で見え方チェック」が推奨されています。緑内障では片目に高度な視野障害があっても、視野の相補性（片目が反対目の情報を補う）や補完性（脳で視野欠損部分を補う）のため、気が付きにくいと言われています。また、加齢黄斑変性症や網膜前膜などの黄斑疾患における、ゆがみの症状も片目でないと気が付きにくい場合が多く、やはり早期発見のため「片目で見え方チェック」が推奨されています。

チェック

まずは眼鏡を装着せずに右目と左目で遠方の見え方をお確かめ下さい。左右眼で度にある程度以上（2ジオプター以上）の差がある不同視の場合には、

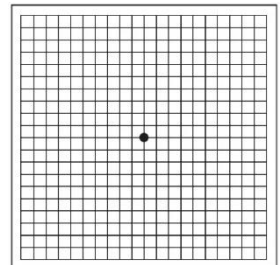


ピントの違い、見えている物の大きさの違い（不等像視）、また優位眼（利き目）や非優

位眼にお気づきになるかもしれません。眼優位性の定義は様々な定義がありますが、簡便な検査にホール・イン・カードテストがあります。これは名前の如く適当な大きさの紙またはカードに穴を開け、眼前50cm程度の距離に紙を持ち、両眼で作成した穴を通して遠くの対象物を見ます。そしてゆっくりそれぞれの目に穴を近づけて対象物の像が穴から外れない目が優位眼です。

チェック

次に加齢黄斑変性症や網膜前膜などの目の中心部分の異常を調べるのに役立つアムスラーチャートをご紹介します。老眼鏡を装着し眼前30cmの距離で、片目でまん中の点を見ます。線がゆがんで見える、中心部が暗く見える、欠けて見えるなどの見え方の異常がある場合は黄斑疾患（目の中心部の異常）の疑いがあります。簡便な検査で、眼科外来でも用紙をお渡しできますのでお気軽にお声かけ下さい。



過去の様々な疫学調査より、程度に差はあるものの、白内障は50歳台で6割、80歳以上ではほぼ全員、緑内障は40歳以上の20人に1人、70歳以上の約10人に1人、加齢黄斑変性症は50歳以上の80人に1人と報告されています。「片目で見え方チェック」で早期発見を行って頂き、症状がある場合早めの眼科受診をお願いいたします。当科では白内障手術はもとより、各種緑内障に対する治療、加齢黄斑変性症などの黄斑疾患に対する抗血管内皮増殖因子（VEGF）硝子体内注射治療も行っております。目でお困りの事がございましたら、どうぞお気軽に眼科をご受診ください。